



滋賀県平和資料館・戦争遺跡見学会

「各地の先進的な平和資料館を見学して、鈴鹿市に作りたい施設のイメージをふくらませる」「県外の戦争遺跡の保存の仕方や道標・説明板などの整備状況を学ぶ」ために今年から始めた県外見学会。第1回は5月27日（土）に滋賀県へ出かけました。

①滋賀県平和祈念館（東近江市）

2012年にオープンしたこの施設は、開館の10年前から県民に戦争資料の収集を呼びかけたことで、たくさんの収蔵品が集まりました。滋賀県内の学校への出前授業もしていて、地域の戦争から平和を学ぶための教材やシナリオが充実していました。学校からの見学者も多いそうです。また、施設と大学が連携して滋賀県内の戦争遺跡の悉皆調査や測量も進めているそうです。やっぱりこんな拠点は必要だなと思いました。拠点があると平和学習が進みます。

②陸軍コンクリート掩体（東近江市）

東近江市にはコンクリート掩体が2基残っていて、そのうちの1基を見学しました。掩体の前には絵を使った説明板がありわかりやすかったです。近くには土製掩体も残っていました。その後、市内に残っている八日市飛行場に関する碑をバスから見ました。

③岩脇(いおぎ)山列車壕（米原市）

米原駅は戦時中、東海道線や北陸線を通じて兵士や弾薬を運ぶ拠点でした。蒸気機関車を空襲から守るために造られた、約130メートルの2本の地下壕を見学しました。この地下壕の中には、以前はごみが散乱していましたが、岩脇地区で2008年10月～2009年8月にごみを運び出して整備。今は壕内に電灯もつけられて見学に便利です。地域の活動でよみがえったこの戦争遺跡は、米原市の指定文化財になる見通しだそうです。

平和ミュージアムの活動、説明板の設置、地域での戦争遺跡保存運動など、鈴鹿でも実現したい取り組みをたくさん学べました。帰りは石樽トンネルを通り「日登美ワイナリー」にも寄って、美味しいワインやパンを楽しみました。来年は愛知県か、岐阜県か、それとも京都府か。楽しく学びたいです。



【滋賀県平和祈念館外観】



【滋賀県平和祈念館展示室】

【滋賀県見学会参加者の感想文】

★鈴鹿市で平和祈念館・・・なかなかハードルが高いですが・・・郷土資料館のようなもの、それも単独では難しいご時世なので何かとの複合施設（福祉会館も老朽化で建て替え時期）とかの建設に合わせてというむのが現実的かな？と思ったりします。いずれにせよ、市民運動が必要です。滋賀県は遺族会の運動と知事の決断のようです。関連して、鈴鹿市の小学校の社会の授業で副読本として「郷土史」のようなものはあるのでしょうか？建物の建設を求めながら、そういう副読本の作成を求めていくことも大事だと思います。「郷土史」の中には必ず鈴鹿市の誕生の理由として「軍都」も「戦争遺跡」も入るでしょうから。



【陸軍コンクリート掩体】

★わたし実は「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」にまったく関心がなかったのです。ところが、ひょんなことから、「鈴鹿にも戦争があった」市民展に参加することになり、展示物の予備知識を一寸は入れておかにゃあ具合が悪かろうと、「鈴鹿市の戦争遺跡」（浅尾悟著）を手にして、生意気にも付け焼刃で、ああだ、こうだ。その時、ある老婦人が展示物を見ながら、ぽつぽつ語る言葉がこころに残ったのです。

滋賀県の平和ミュージアムは勿論、初めて。館員の行き届いた説明に堪能もしたが、遺族会のつよい願いと働きによって設立されたことに得心が行く。今、現職教師が館員として2年ほど出向してきて、また教師の現場に戻ることや、スタッフが平和ミュージアムの出前もするなどの取り組みには感嘆！

西に東にマイクロバスで移動する折々、逐一、流れるように説明があり、無知を絵に描いたような私には、その解説は大助かり。周りをやや小高く土囲いした凹みが掩体壕という説明に、“えっ、こんなもので爆撃から戦闘機を守ろうとしたの？”と、米軍が次々、各地を空襲する中でなされた軍備の緊急対応が何とも虚しく映る。

最後の見学は、岩脇の蒸気機関車避難壕（敗戦で未完成）。その掘削に朝鮮人労働者が動員され、従事したそう。その記録がまったく残っていないそうだが、偏見に曝された生活、危険な発破作業にモッコ、つるはしの労働が、如何に過酷であったろうと想うだに複雑な思いを禁じ得ない。

平和ミュージアムのレクチャーで回覧された1個の実物焼夷弾（保存遺物）が、ずしりと重かったことを思い出す。爆撃機から投下された親爆弾が空中で弾け飛び、子爆弾の焼夷弾が何万本も降り注いで何もかも焼き尽くす業火となった。戦時中、「逃げず消火せよ」の非情な指示があったがために一面の焼土に、遺骸が焼け焦がれて累々と横たわる記録が悲惨で辛い。

この度、滋賀の平和ミュージアム見学をよくぞ企画戴きました。感謝します。かつて軍都であった鈴鹿にて戦争遺跡を保存・文化財指定と活用・平和資料館開設に向けて地道に取り組まれている「市民の会」に敬服します。平和な未来を共有するためのお働きの前進を祈ってやみません。



【岩脇山列車壕】

★初夏の風が心地よい、5月27日、「滋賀平和館と戦争遺跡」の見学会にお連れ頂き有難うございました。私は満州事変に生まれ、日支戦争・大東亜戦争・終戦を女学生の多感な時期を送りました。この度の基本展示室での地域の街の移り変わりを興味深く拝観いたしました。

また戦後70年陸軍コンクリート掩体の山際にある飛行機を敵機から守るための大きな防空壕の様な穴、そして飛行場までの誘導路は掩体すれすれの道幅から、滑走路までの広い道幅を見てますと、紅顔の少年の姿が浮かび上がり、惨い戦いあったと思います。また蒸気機関車避難壕は真っ暗なトンネルで水も溜まり、150cmの高さで低く恐々歩き出しましたが、発破・手掘りの跡もみられ国家・陸軍の指令とはいえ、大変な事業であったと思います。今またトランプ氏の発言を聴きつつ、世界もおかしな状況になるのではと、おののいています。まどろしいですが、話し合いで進め戦争は絶対起こしてはいけませんね。滅多にない実習付きのお勉強会を有難うございました。

★有意義な見学会でした。岩脇先生の完璧な見学スケジュール・解説、参加されている皆様の真剣なお姿に感銘を受けました。平和資料室の開設は必要であると思います。一刻も早い開設が望まれます。若い世代への引き継ぎが大切ですし、それが課題でもあります。滋賀の平和祈念館は見学にその課題解決のアプローチをしておられたと思います。

市民の関心を高めるには？行政を動かすには？・・本当に大変です。大きな山を動かすにはどうすればいいのでしょうか。考えれば考えるほど難しい・・です。まず、子どもたちに鈴鹿市のことをしっかりと学んでもらいたい。理解してもらいたいです。知ることが基本です。行政の方たちもどれほどわかっていらっしゃるのでしょうか？「軍都鈴鹿」の意味を知っておられるのかな？

私の父は大正5年産まれ。15歳で志願兵になったそうです。私が幼い頃、晩酌で酒に酔うとよく戦争の話を始め、こそこそとその場から逃げ出したものです。戦争の話は嫌でした。今この歳になって「もっとよく話を聞いておけばよかった」と悔やんでいます。詳しく理由を聞いたことはなかったけれど、戦争体験によるトラウマだったのでしょう。私の手元には、父が「これがあったから生き延びることができた」と言っていた飯盒がひとつあります。娘（34歳）が小学校高学年のとき夏休みの課題「戦争の話の聞き取り」で祖父にいろいろ話しを聞き、その時に譲り受けたものです。娘はその時のことを覚えています。私には孫に戦争の話をすることはできません。また私が「日本は戦争をしてバカだ」と言った時、父は顔を真っ赤にして「今の日本があるのは兵隊が命をかけて戦ったからだ」と怒りを爆発させました。母が慌てて飛んできたことを覚えています。飯盒も私がいなければ処分されるでしょう。元軍人と生々しい魂のぶつかり合いをすることももうありません。戦争が終わっても両親の世代は苦労の連続だった、と思いを馳せることができるのも私たちの世代まで。それぞれの家庭に眠っている戦争の遺産もあと10年もすれば片付けられてしまうことなのでしょう。時間がないなあと思います。

市民の会の皆様の思いを引き継ぎ発展させてくれる若い世代の発掘、育成も急務ではないかと思えます。戦争が長引けばこの鈴鹿もどうなっていたか、鈴鹿の出身ではありませんが、先人の苦労のおかげで今の暮らしがあると思うと感謝です。機会があればいろいろ見学会に参加させていただきます。



【参加者と共に(岩脇山列車壕)】

第4回戦争遺跡親子見学会

今年で4回目となる「戦争遺跡親子見学会」は20数名の参加で7月23日(日)に開催されました。もともと小中学生の夏休みの自由研究に取り上げてもらうことを目的に毎年7月の夏休みに入った直後に開催しており、今年も5名ほどの小中学生が参加してくれました。また小学校の教員の方の参加もあり、平和教育への還元が期待されます。

朝8時に桜の森公園戦争遺産モニュメント前(旧鈴鹿海軍航空隊正門跡)に集合、案内は元中学校教員・浅尾悟さん、まずこの地にかつてあった「鈴鹿海軍航空隊」について説明がありました。16歳~18歳の若者がこの航空隊で学び、戦地に配属されていったこと、戦争末期には実践航空隊として再編成され、「若菊隊」が組織され、特攻訓練をうけ、南方に散っていったことなどが説明されました。ここからマイクロバスに乗り、近くのアピタ鈴鹿店横に移動、「二空廠の鉄道引込線跡」を見学。「鈴鹿海軍航空隊」をはじめ、「第二鈴鹿海軍航空基地」「三菱重工鈴鹿補給工場」「三菱重工鈴鹿製作所」などこの一帯が航空機を介在した一大航空基地であったことなどが説明されました。続いて旭が丘中央公園近くの「滑走路排水路跡」に移動しました。旭が丘小学校や白子中学校を含むこの旭が丘一帯がかつては巨大な滑走路跡であり、ここで毎日、白菊などの練習機を使って飛行訓練を受け、伊勢湾上空で漁船を敵艦に見立てた攻撃訓練が行われており、その滑走路の排水路が唯一この場所に残されています。

次にバスにのり向かったのが鈴鹿サーキット稲生駅近くの「稲生半地下倉庫跡」。最近発見された戦争遺跡で、長さ20m以上のコンクリート側壁が残り、戦時中の海軍の軍事物資を避難する倉庫であろうとされています。未だ不明なことも多く、これからの調査が期待されます。

次に「鈴鹿海軍工廠跡」に移動しました。まずは「発射場(試射場)跡」へ。幅約12m、高さ約10mの「コ」の字状のコンクリート遺跡の巨大さに圧倒されました。「鈴鹿海軍工廠」は戦闘機に搭載する機銃とその弾薬を製造する軍需工場であり、その完成した機銃を試射するのがこの遺跡です。次に平野の弾薬製造工場が残されている「火管圧填工場跡」へ移動し、付近に3棟残されているレンガ造り火薬庫とともに見学しました。ここで「鈴鹿市」が戦時中、この鈴鹿海軍工廠の建設をきっかけに誕生したことを説明しました。最後にイオンモール鈴鹿(ベルシティ)横にある「鈴鹿海軍工廠の正門銘板」を見学し、見学会を終えました。

午前中4時間という見学会でしたが、過去の見学会にはなかった「稲生半地下倉庫跡」などもあり、毎回参加されている方も興味をもって見学をなさっていました。子どもたちとその保護者の方も各見学地で浅尾さんに熱心に質問されていたことが印象的でした。きっとすばらしい「自由研究」になることなのでしょう。こういった戦争遺跡が残されているからこそ現場で「鈴鹿市にも戦争があった」ことを学ぶことができ、活きた平和教育ができるのです。

【鈴鹿海軍工廠試射場跡】



【親子見学会参加者の感想文】

★今年は、鈴鹿市の南部と言うことで、鈴鹿市の南部には、戦争当時、航空隊基地や軍需工場があったという知識はあったので、楽しみにしていました。実際に見学に行ってみると、白子からサーキットにかけては、広大な平地が広がっていることがわかりました。確かに、ここなら飛行場や大きな軍需工場が造れることが理解できました。当時は、農地が広がっていたと言うことで軍部も手に入れやすかったのだと思いました。浅尾先生の説明で、当時の航空隊のあとや海軍工廠の跡を見学しましたが、特に海軍工廠や関連工場がいくつもあったことや航空基地

がかなり大きな物であったことがわかり、さすが鈴鹿が軍都と言われるだけのことがあると思いました。戦争当時は、この軍需工場に勤労働員で働きに来ていた人も多いと聞き、私の知っている人も鈴鹿の軍需工場に働きに行っていたと話していたので、このあたりで働いていたのだと思いました。さすが開発の進んでいる地域であり、戦争当時の構造物で残っている物は少なかったのですが、それでも、レンガ造りの弾薬倉庫や射撃場の跡など残っていて、終戦間近な当時の緊張した情勢が伝わってくるようでした。戦争当時のことを語れる人や遺跡がどんどん少なくなっている現在、戦争は負の歴史ではあるけれど、将来同じ過ちを起ささないためにも、遺跡については保存できるような運動をしていくことが大切だなどと思いました。半日でしたが、貴重な体験になりました。ありがとうございました。今後も機会があったら参加させていただきたいと思います。

★今回まわったところは以前に見学したこともありましたが、浅尾先生のお話で、新たに知ったことや発見したことが多々ありました。数年前に比べると、見学しにくくなったところ、様子が変わったところもあり、保存の大切さを感じました。来年も楽しみにしています。

★自分の家の近くにあるのに、初めて知ったことが多かった。わからない事は、わかりやすい説明でよく分かった。

★暑かったけど勉強になった。先生の話がおもしろかった。レンガのたてものを初めてみた。

☆普通に生活しているだけでは、絶対に知ることができなかつたことばかりで、大変勉強になりました。身近に暮らす鈴鹿市にたくさんの戦争にまつわる遺跡が残されていることを子どもたちにも伝えたいと思います。特に稲生の地区に残された倉庫跡や稲生に落とされた爆撃のお話などは子ども達も知っておくべきことだと思うので2学期からの学習に生かしていきたいと思います。暑い中をご教授下さり、ありがとうございました。また、会の企画運営などありがとうございます。

★鈴鹿に住んでいても全く知らない事がたくさんあり、とても勉強になりました。現在は、とても平和に、何事もなくくらしていますが、70年ほど前には戦争が起こっていたことを感じる事が出来ました。二度と戦争が起こらないように、負の遺跡、そこに携わる生活のようすなどを残していただき、語り継いでいくことが大切だと感じました。ありがとうございました。二学期からの社会科での授業で話させていただきます。

★お蔭様で第4回見学会参加出来嬉しく思いました。昨年に引き続きお世話になりまして有難うございました。遺跡も段々と壊されていくとのことで残念ですが戦争とはどんなものだった



【稲生半地下倉庫跡】

かと子ども孫に見せて語り継ぎたいものです。お蔭様でその後志摩市、香良洲町、菰野町と勉強する機会に恵まれこれも昨年の見学会のご縁の賜物と感謝しています。又沖縄辺野古、高江の友人から平和への願いが届きました。二度と同じ過ちを犯さない沖縄を再び戦場にさせてはならないと私も残された人生微力ながら平和を求めて歩きたく思いました。明日は東員町の94歳の特別攻撃隊生き残りの方の御家を訪ね勉強をさせて頂くことになり緊張しています。今後も見学会を楽しみにしています。

戦時体験聞き取り～鈴鹿海軍工廠住吉住宅編～

佐藤 毅さん（鈴鹿市住吉町、82歳）

佐藤毅さんは1934（昭和9）年島根県出雲で生まれ、1944（昭和19）年9月、内務省に勤められていた父の転勤の関係で広島県呉からこの鈴鹿海軍工廠住吉住宅に引っ越してきました。呉には呉海軍工廠があり、その関係で、住吉住宅には広島県出身の方が多（住民の7～8割）のだそうです。住吉住宅は主に2等工員などが住み、1等工員など上級の工員は大池住宅に住みました。住吉住宅は4軒長屋が基本で、基本3間（3畳、4畳半、6畳）と台所、便所などの間取り（3LDK）で、前に庭がありました。中の2つが40坪（庭を含む）、外の2つが50坪の広さでした。佐藤さんが来た当初は電気も水道もなく、しばらくして施設されたようです。各家毎に防空壕を庭に掘り、空襲警報が発令されるとそこに避難しました。

小学校は国府国民学校（現：国府小学校）に通い、住吉住宅の子どもたちで集団で登校、学校の手前100mになると「歩調をとれ！」の合図で軍隊式行進になり（そうしないと上級生に怒られる）、校舎前の奉安殿（天皇皇后の写真と教育勅語を保管）に敬礼し教室に向かいました。しかし教室で勉強することはなく、校庭や近くの田畑で「勤労奉仕」で畑作りやイナゴ取りなどをしました。帰りには必ず「教育勅語」を復誦し、帰宅しました。鈴鹿海軍工廠の建設は一般作業員の他、津刑務所服役囚も動員され、その出張所が現在の焼肉あだち付近に作られました。住吉付近も工廠建設前は雑木で覆われていましたが服役囚の人たちにより伐採されました。

現在のホテルルートイン鈴鹿あたりに鈴鹿海軍工廠の物資部購買所があり、工員の家族はそこに買い物に行ったそうです。また1945（昭和20）年頃、奈良池の南（草競馬）付近（現：鈴鹿青少年の森公園）で、アメリカ兵が落下傘で降下、「鬼畜米英」ということで近所の人が集まり痛めつけたあと、憲兵に引き渡しました。

1945（昭和20）年、いったん広島に帰り、終戦は広島県小屋浦で迎えました。広島原爆投下時（1945年8月6）も広島にいましたが、うわさで聞いただけで直接は覚えていないそうです。同年10月頃、鈴鹿に戻り、飯野小学校に転校、戦後直後（約半年間）は旧教科書の墨塗教科書を使っていましたが、しばらくして初めて新しい教科書が配布されました。その後、新製の平田野中学校に進学しましたが、当初は旧鈴鹿海軍工廠岡田宿舎が臨時の中学校となり畳の部屋で勉強をしました。戦後、鈴鹿海軍工廠はしばらくGHQ（占領軍）により管理されましたが、MPが来るまでの間、工場の備品や部材などは近所の人転売や薪用に持って行ったそうです。佐藤さんは中学校卒業後、四日市の理容店で働くようになりましたが、駅付近の繁華街には兵隊くずれのやくざや「傷痕軍人」と呼ばれた人たちが多くいたということです。住吉、国府など平田地区の元工員の人たちは新しい職場を探しましたが、近鉄平田駅がない当時、国鉄（JR）加佐登駅から四日市や名古屋方面に出勤する人が多くいました。

戦後、住吉などの元工員住宅は管轄が軍から東海財務局に移管され、引き続いて家賃（100円／月）を払って住み続けました。1947（昭和22）年9月、住宅は財務局から鈴鹿市へと移管されます。その時、住宅の払い下げの話があり、全戸が応じなければこの話はないとの状況で反対者もいる中、当時の自治会長であった川村さんの説得で、全員が払い下げに応じました。当時の価格で坪365円で、分割にも応じてくれました。住吉で払い下げが決まると、大池住宅などに払い下げが広がりました。

佐藤さんは現在、自宅で理容店を営みながら、近くの明生小学校などにこういった戦時中の話などをされにいくそうです。今回、貴重なお話を伺うことができました。



【佐藤 毅さん】

銃座や監的壕 戦争の痕跡鮮明

鈴鹿の旧日本軍射撃場跡を調査

旧日本軍の射撃場跡が鈴鹿市に残っている。銃座などが開発を免れて形をはっきりととめており、現地調査をした元中学教諭らは「若い世代にも伝えるべき貴重な戦争遺跡」と話す。

「平和教育に活用を」

戦後間もない頃に米軍が撮った航空写真には、林に囲まれた長方形の土地が同市石薬師町に写っている。これをもとに、「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用

する市民の会」メンバーで元中学教諭の浅尾悟さん(62)が昨年从今年にかけて、戦争遺跡に詳しい研究仲間とともに調査した。一部は畑になっていた



●射撃場跡に残る銃座のコンクリート。鈴鹿市●冬場の射撃場跡。的があったのは奥側。浅尾さん提供

が、開発は進んでいなかった。コンクリート製の銃座、的を立てたとみられる台、銃弾があたったかどうかを調べるための監的壕などが残っており、射撃場全体の大きさも測った。射撃場南端にある銃座はコンクリート枠が残る、一つの幅が約2.5メートル、奥行き約3.5メートル、高さ0.6メートル。梅の木や草が生い茂る中、約3メートル間隔で横に八つ並ぶ。伏せた姿勢などで小銃の射撃訓練をしたとみられる。浅尾さんは「もとの形を残していることに驚いた。基礎までしっかり作られ、戦後も簡単に撤去できなかったのではないかと推し量る。地権者の家族は「先代が土地を買い、梅の木を植えたが、コンクリートはそのままにしていたようだ」と話す。

的は銃座の北300メートルの位置にあったとみられる。今年初め、的の台とみられるコンクリートが、銃座に
対応するように八つ並んでいるのを確認。手前にはコンクリートで固めた細長い監的壕が東西に走っていた。
施設は近くに部隊を置いた陸軍第一気象連隊が訓練で利用したとみられる。
銃座の近くで農作業に従事する牧野定雄さん(81)によると、戦時中、軍が谷状の土地をならし、的側には盛り土をして射撃場を建設した。気象連隊が車で乗り付けては訓練をした様子を覚えており、「人の形をした的を撃っていた。赤や白の旗を立てて当たったかどうかを知らせていた」と思い返す。門番はいたが、中は見えたという。
浅尾さんは「施設全体が残る射撃場跡は珍しい。個人や市民団体が記録に残すだけではなく、行政も保存に乗り出し、平和教育にも活用すべきだ」と話す。
戦時中に航空基地や軍需工場があった鈴鹿市では、掩体(飛行機の格納壕)や半地下式の倉庫跡も昨年以降、新たに確認されている。(荻野好弘)

第21回 戦争遺跡保存全国シンポジウム (高知大会)

8月19日(土)～20日(日)に高知市で戦跡シンポが開催され、のべ300人が集いました。鈴鹿の会からは竹内、岩脇の2名が参加しました。高知では南国市のコンクリート製掩体が有名ですが、本土戦用のトーチカも59基確認されているそうです。来年は、豊川海軍工廠跡地の公園化と二つ目の資料館が完成する愛知県豊川市で開催されます。今から楽しみです。

平和への祈り展に参加

非核平和・人権都市宣言をしている鈴鹿市が長年にわたって主催してきた「2017 平和への祈り展」が6月30日(金)から7月2日(日)まで、イオンモール鈴鹿イオンホールで開かれ、「市民の会」も市民実行委員会の一員として昨年に続き参加しました。

今年は原点に戻った形で広島と長崎の原爆に関する展示と県内に住む被爆体験者や語り部となった長崎の被爆二世の講話がありました。市民実行委員会は「鈴鹿にも戦争があった」と題して、市内の戦争遺跡の写真パネルや空襲のあった4か所の地図のほか、召集令状(赤紙)、海軍工廠で造られた弾薬、戦時中の教科書など約50点を展示しました。

3日間で1147人の見学者があり、市のアンケートによれば、20代から70歳以上まで各年代偏りなく見に来ていました。中でも7割近くが初めての見学で「関心や理解を深めた」と答えていました。当然、原爆への感想が大半を占めたが、「鈴鹿の軍事施設を知ることができてよかったです」という声もありました。



—市制75周年記念—

戦争遺跡資料展と講演会のご案内

1. 日時 2017(平成29)年11月27日(月)～12月2日(土)
2. 場所 鈴鹿市深伊沢公民館 (鈴鹿市深溝町1560-1) ☎ 059-374-2996
3. 内容 ①戦争遺跡パネル展示会 11月27日(月)～12月2日(土)
②講演会 12月2日(土) 10時～12時
講師 浅尾 悟さん(中学校元教員)
演題 「陸軍椿秘匿飛行場と掩体」
※当日は鈴鹿市戦争関係資料の展示も行います。
- ③その他 聴講無料
4. 主催 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
5. 後援 (予定) 鈴鹿市・鈴鹿市教育委員会



【発行】 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 竹内宏行、中森成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

HP <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>